

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立文花中学校
校長名	稲垣 吉実

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・本校の各教科の観点別平均正答率が全国の平均正答率との差が-5pt 未満のものが 14 観点から 7 観点到減少した。・数学は、全学年で全国正答率を上回っている。・国語は、経年比較で 2, 3 年とも前年度を上回り、理科も 3 年で前年度を大幅に上回った。・1 年の国語と理科、2 年の国語と英語で 3 観点とも全国平均を上回っている。・2 年の国語は全国平均正答率との差が +5pt 以上を達成した。	<ul style="list-style-type: none">・社会が全学年で全国平均正答率を下回っている。特に 3 年は全観点で-5pt 未満である。・英語が多少ではあるが、経年比較で 2, 3 年とも前年度を下回っている。・2 年生の経年比較で D E 層が国語以外増えている。また、B 層が数学以外減っている。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学級の規範意識は 3 学年とも標準スコアで全国値を大きく上回り学級風土は良好である。・ソーシャルスキルの対話・話し合いが 3 学年とも標準スコアで全国値を上回っている。・「先生は授業やテストで間違えたところや分からないところについて分かるまで教えてくれる。」の項目で、肯定意見が 3 学年とも 80% を超えている。	<ul style="list-style-type: none">・3 学年とも「充実感と向上心」・「自己肯定感」の標準スコアが全国値を下回っている。・経年比較で、2, 3 年とも若干ではあるが、自己肯定感でリスクのある人数が増えている。・経年比較で 2 年生が学習習慣と学習意欲で大幅に下がっている。・「難しい問題に挑戦することが好きだ。」の項目で肯定意見が 3 学年とも 40% に満たない。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・漢字、計算、英語コンテストに向けての家庭学習(ホームワークマラソン)が定着し合格率が向上して「やればできる」という意識が高まっている。・都の調査では、「理科の授業の内容はどのくらい分かりますか。」「理科の学習はどのくらい得意ですか。」の項目で肯定意見が、都の割合を超えている。・都の調査の学習指導の工夫では、「他の人と考えを交流しながら課題解決する活動を行って	<ul style="list-style-type: none">・各検定の受検率が伸びない。英検、漢検、数検の 3 級取得。トリプルスリーを奨励しているが、挑戦する生徒が少ない。・都の調査では学習の進め方で、自分が考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしているの肯定意見が 42.7% と 5 割未満であった。・都の調査で、「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。」が 44.3% と 50% を下回っている。

いる。」「自分の考えたことを他の人や先生に説明する時間がある。」の項目で肯定意見が、都の割合を超えた。また、学習習慣として「学校以外で塾等の時間を含めないで毎日どのくらい勉強しますか。」2時間以上、1時間以上2時間未満の割合が都の割合を上回った。

・都の調査では、学習習慣として「学校以外で塾等の時間を含めないで毎日どのくらい勉強しますか。」の項目で2, 3年生で全くしていないの割合が都の割合より5%以上高い。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 今年度の校内研修のテーマ「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を校内で共有し、学力向上に向けた取り組みにつなげる。

- ・「指導の個別化」と「学習の個性化」に焦点を当て、個々の生徒に応じて異なる学習方法で学習を進めることや探究学習の進め方等外部講師を招いて講演会を実施するなど学校全体で研修し、基礎学力の徹底を図りつつ、特にDE層の減少につなげる。
- ・全校体制で研究のテーマの（a 学習意欲の喚起。b 他者と学び合う。c ふり返り。）を意識し、特に「協働的な学び」を意識し、授業の中でICTを有効活用しアウトプットさせ学力の定着を図る。

(2) 昨年度に引き続き、学びに向かう力の育成を目指し、授業力の向上を目指す取り組みと自己肯定感を高める取り組みを行う。

- ・「分かる授業」「学力が向上する授業」の実践集を有効活用して、年2回の研究授業や年2回の授業観察期間の互見授業体制のOJTを活性化させ、教員の授業力向上を図る。
- ・「学習ふりかえり期間」に、学習状況調査の正答率が50%未満の問題を中心に学習する。
- ・授業時の約束事を文中Challenge&Change（文中CC）として掲示し、授業規律の徹底を図る。
- ・年2回のi-checkの結果や東京都学習状況調査を分析し、帰りの学活で、「本日のMVP」を発表するなど生徒の他者受容感や自己肯定感、自己有用感を上げるための取り組みに活かす。
- ・年3回の基礎学力コンテスト（漢字・計算・英単語）を通して達成感や成就感を体験させ、自己肯定感の向上を図る。

(3) 補習学習や家庭学習の必要性や重要性を意識させ、モチベーションを高める取り組みを行う。

- ・放課後学習教室や試験前の質問教室などの取り組みを、進路指導部を中心に計画を立て実施する。
- ・各教科で「キュビナ」や「ミライシード」「ふりかえりシート」を活用し、家庭学習の定着を図る。
- ・単元テストや小テストを行う機会を短いサイクルで設けテストの範囲を家庭学習と連動させる。
- ・基礎学力コンテスト前は、出題される問題を「ホームワークマラソン」として配布し、繰り返し学習させることで学習習慣を身に付けさせる。

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・墨田区学習状況調査において、全観点の平均正答率を全国との差が-5ptの教科をなくす。
- ・個別最適な学びを進め、全教科のDE層を減らし、B層の人数を増やす指導を行う。
- ・常に振り返り学習を意識させ、同一集団の標準スコアが前年度を下回る教科をなくす。
- ・授業の中でのアウトプットを徹底し、社会、理科の学力向上を目指す。